

高松市立栗林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

よく学び よく遊び よく働く 子どもを育てる

「確かな学力の定着」「健やかな心と体の育成」「心の豊かさの実践」

【目標】

- 運動が好き、やや好きと答える子どもの割合を、R2年度までに85%にする。
- 体を動かすことの楽しさを味わい、習慣として運動する子どもを育成する。

【取組み】

段階的な指導を行うための資質・能力の系統表の作成

本校には多数の教員がいるため、体育授業が得意な教員、得意ではない教員もいる。そのため、クラスによって指導の差が出やすかった。どの学年どの学級でもより充実した体育授業がなされ、子どもたちが各発達段階でできた喜びや運動の楽しさを実感できるように、新学習指導要領をもとに、今年度は器械運動系、水泳運動系、ボール運動系の系統表を作成し、職員に周知をした。来年度は全領域において作成できるようにしていく。

児童の運動感覚を育む栗林セットの作成

授業の中で児童にできた喜びを味わわせるための一つの手立てとして、感覚の運動を意図的に組み込んでいく必要があると考えた。そこで各領域のはじめの5分～10分で行う運動のセットを作成した。また段階的に指導していくことで、毎回毎回運動の仕方を教える時間が縮小し、運動時間をより多く確保できるようにしていく。

体力向上プロジェクト

投力に課題があることを体力づくり委員会の児童に伝え、投力向上のプログラムを共に作成した。始業前の時間を利用し、週2回委員会の子どもたちが考えた運動（今年度は投の運動）を行い、楽しみながら体力の向上を図る。遠くに投げる力を高める場、正確に投げる力を高める場、力強く投げる力を高める場を考え、それを学年ごとに行えるようにしている。

遊ぶ場所・体育備品・クラス配当品の充実

できるだけ多くの児童が遊べる場所を考え、体育館や運動場だけではなく、屋上や中庭に鉄棒やジャンピングボードを置くなどし、体を動かせる環境を作っている。フラフープ、一輪車、竹馬等を増やし、ピロティなどで児童が様々な運動に休み時間に取り組めるようにした。また、柔らかいボール2つや長縄、マーカーコーンなどをクラスに配布し、いろいろな外遊びができるようにしている。

【現状】

運動場では児童が楽しそうに体を動かしている様子が見られる。しかしながら1000人以上の規模に対して運動場の面積は狭く、グラウンドでは全員が一度に遊べるスペースはない。

体育の授業においては、学級数の関係で体育館等は4年生以下は2クラスで使用することとなっている。運動場は2クラスか3クラス同時に使用する。そのため同じ単元を行うとしたら、体育備品・消耗品が2倍必要となってくる。またクラス数に伴って教員数も多く、体育授業に関して苦手意識を感じている教員もいる。

【本校の課題】

- 全ての学年において、男女ともにソフトボール投げ、立ち幅跳びの記録が県の平均を下回っている。
- 多くの児童が外遊びや体育館での遊びを行っているが、運動習慣がついていない児童も多い。
→体育の授業で、体を動かす楽しさ、「できた」という自分の技能の伸びを味わわせる必要がある。
また日常的に運動に取り組む習慣を付ける必要がある。